

全国都市再生モデル調査概要様式

1. 応募団体名	大洗町
2. 調査名	大洗海の大学を中心としたまちづくり調査事業
3. 推薦団体名	
4. 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	大洗町全域
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	大洗町は、面積23Km ² 、人口約19,500人と小さな町である。一方が海に面し、一方が川に面して、さらにもう一方は湖の面する水に囲まれた自然豊かな地域である。古くから観光と漁業が栄えてきたが、最近では、水揚げの減少や、観光客のニーズの多様化による要求も増加している。
5. 提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	<p>大洗町では、海の町「大洗」の再生を目指し、大洗特有の海の文化を更に鮮明にしたまちづくりを展開している。その一つが大洗を丸ごと体験できる仕組みとしての「大洗海の大学」である。</p> <p>その運営における体制の整備として、地域の高齢者や大学生などの若者との連携による受け入れ態勢の整備である。また、新たな体験型プログラム商品開発も大きな課題である。更に、海の町の情報を早く、多角的に提供する仕組みづくりも大きな課題である。</p>
(2) 本調査費による活動内容の概要	<p>本調査費によって行われた活動内容の概要</p> <p>1. 調査委員会の開催 2回開催(H15.11.17)(H16.3.24)</p> <p>2. 人材(海の名匠)発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキング会議6回(H15.11~H16.3)平均12人 ・アンケート調査実施 <ul style="list-style-type: none"> 第1回(H15.11.23)434人 第2回(H16.2.22)24人 ・海の名匠発掘と若者による聞き書き調査 聞き書きワークショップの開催 作家 塩野米松氏による講演(H15.12.23) 参加者24名 聞き書き実習(H15.12.24) 高校生3名、大学生4名

(講演風景)



(実習風景)



- ・アクティブシニア人材発掘

料理講習会 町高年者クラブ女性会

第 1 回(H16.1.30)参加者 40 名

第 2 回(H16.3.19)参加者 40 名

(講習会風景)



3 . 大学との連携推進

- ・茨城大学との連携内容協議 4 回

松井教授外 4 名の教官 NP03 名、町職員 3 名
(H15.11.7)(H15.11.21)(H16.1.26)(H16.3.10)

- ・常磐大学との連携内容協議 4 回

糸賀教授外 4 名の教官 NP03 名、町職員 3 名
(H15.11.7)(H15.12.9)(H16.1.27)(H16.1.28)

4 . 新たなプログラム開発

- ・ワーキング会議 7 回(H15.11~H16.3)平均 18 名

- ・貝合わせワークショップの開催

生越講師の指導による(助手 2 名)

第 1 回(H15.11.18) 参加者 22 名

第 2 回(H16.1.18) 参加者 33 名

(貝合わせ風景)



・海辺の音の商品化

音探しワークショップ

(H16.3.6) 参加者 12名

環境楽器ワークショップ

(H16.3.7) 参加者 42名

(音探し風景)



(環境楽器づくり風景)



・旅行雑誌記者等プレゼンテーション

H16.3.3~4 参加者るるぶ外6社8名

専門家4名、市民15名、NPO10名

まち探検、プレゼン、各種体験

(路地裏探検風景)



(海草の押し葉体験風景)

(干物づくり体験風景)



5. ポータルサイト立ち上げ

・内容協議 5回 参加者 専門家1名、市民5名

NPO2名、町職員5名

(H16.1.20)(H16.1.27)(H16.2.12)(H16.2.17)

(H16.2.24)

本調査以外の財源を投じたり、あるいは経費をかけずに、本調査の一環として行った活動内容の概要。

1. アクティブシニアの発掘

	<p>・炭焼き & アウトドアクッキングワークショップ (H16.2.21~22) 参加者 34名 (炭焼き & アウトドアクッキング風景)</p> 
<p>6．本調査と関連する活動実績</p>	<p>大洗海の大学が拠点として予定していた旧サイクリングターミナルについては、大洗町としても体験活動をより広く進めるため「大洗体験活動交流センター」として大洗海の大学とあわせ平成16年4月から新たにスタートすることになった。</p>
<p>7．本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>	<p>人材の発掘では、聞き書きを7名の方に行った。実施した学生の職業に対する考え方にもすくなく影響を及ぼすことができた。さらに保存すべき技術や経験記録として残すことができた。今後継続して多くの聞き書きを実施し、冊子として残す必要がある。</p> <p>大学との連携については、当初予定していた学生の協力や、研修の場としての考え方のみならず、茨城大学の講義の一部を平成16年度大洗海の大学の教授が行うこと、また、茨城大学の社会教育主事講習の一部を大洗海の大学の教授が行うなど茨城大学からの提案があり実施に向けて調整をつづけているが、今後さらに継続して連携が確固たるものにする必要がある。</p> <p>新たなプログラム開発については、「貝合わせ」等問い合わせが多く反響が大きい。大洗海の大学以外でも取り組みが始まり、町観光協会主催で4月から6月に実施する予定になったが、各宿泊施設でも実施ができるよう講師養成について大洗海の大学が取り組まなければならない。</p>